

---

---

# 2014年 IBA 東京大会ランチレセプション 報告

## World City Bar Leaders Lunch Reception

国際委員会委員 井上 乾介 (61期)

同 川勝 明子 (62期)

**世**界最大の法曹団体である「国際法曹協会」(International Bar Association: 略称IBA)は、毎年10月ころに、世界各国の都市で年次大会を開催している。2014年の年次大会は、10月19日から10月24日までの日程で、東京(会場:東京国際フォーラム)で開催され、世界各国から6000人を超える法曹関係者が参加した。

当会は、IBAの団体会員であると同時に、ロンドンやパリなど世界の大都市弁護士会の役員が集まって共通の課題について話し合う「世界大都市弁護士会会議」(Conference of World City Bar Leaders: 略称WCBL)の設立メンバーでもある。

**今**回、IBAの年次大会に合わせ、WCBLに加盟する弁護士会の会員が東京に多数訪れることを機に、WCBL加盟弁護士会の会員を中心に招待し、弁護士会および会員の相互の親睦を深め、あわせて当会を国際的にアピールすることを目的として、IBA期間中の10月22日、帝国ホテル「孔雀の間・南」で、ランチレセプションを開催した。

**当**日は、あいにくの小雨交じりの天候であったにもかかわらず、IBA年次大会の午前のセッションが終わった正午過ぎから、WCBL加盟弁護士会の会員らが、レセプション会場前のホワイエに、続々と集まってきた。

ホワイエでは、当会の萩原園子会員がヴァイオリン、北澤香織会員が電子ピアノを演奏し、来賓を歓迎する華やかな演出がなされた。開場を待つ間、参加者はドリンクを片手に自己紹介を交わし、開場と

ともに新しく知り合った弁護士会員とめいめい自由にテーブルについた。

**ラ**ンチレセプションの会場には、一足早い紅葉の樹木がほどこされ、日本の秋らしさが上品に演出されるとともに、プロの演奏者による琴の演奏があり、「和」の心地よい雰囲気により一層盛り上げていた。

食事は、天ぷら、寿司やそば等、帝国ホテルの一流シェフによる日本食がバイキング形式でふるまわれ、参加者は舌鼓を打っていた。

**今**回のランチレセプションには、当会が友好協定を締結しているパリ、シカゴ、香港の各弁護士会をはじめ、ロンドン、ブラジル、アムステルダム、バルセロナ、ブリュッセル、ミラノ、モンテリオールなど、WCBL等を通じて当会と交流が深い世界各都市の弁護士会から総勢42名が出席した。

当会からは、高中正彦会長、栗林勉副会長をはじめとする理事者、石黒美幸委員長をはじめとする国際委員会委員および公募で参加した当会会員あわせて53名が出席した。

**参**加者がほぼ着席した午後1時過ぎから、当会国際委員会のアンドレアス・ミュラー委員、田中優子委員の司会により、当会、パリ弁護士会、ロンドン弁護士会の挨拶が順次行われた。

まず、当会的高中会長から、海外の弁護士会および会員に対する歓迎の言葉が述べられた。続いて、日本最大の単位会として、WCBL、IBAをはじめと



する国際的な活動に積極的に取り組んでいることの紹介がなされ、今回のランチレセプションを機にますます相互の交流を深めていきたいと挨拶が述べられた（高中会長の挨拶の同時通訳は、廣瀬元康委員が務めた）。

続いて、パリ弁護士会のDominique Borde氏から、今回のランチレセプションへの招待に対する感謝の言葉が述べられ、あわせて弁護士が「法の支配」の理念を実現する担い手として自覚と責任を持つことが重要であるとの力強いスピーチがなされた。

最後に、ロンドン弁護士会のAlasdair Douglas会長からも、招待への謝辞が述べられ、「法の支配」の理念を共有する世界の弁護士会、および各弁護士会員が今後も国境を越えて協力し、世界規模に広がるビジネスの発展のために積極的に活動して行こう、との呼びかけがなされた。

その後、スクリーンに過去のWCBL大会の写真が投影される中、参加者は、自由にテーブルを移動し、旧交を温めたり、新たに出会った弁護士会会員と名刺を交換し、互いの業務について質問を

したりするなどして、大いに交流を深めていた。

小職らも、同席したパリ弁護士会やアムステルダム弁護士会の会員らと、東京近郊の観光の名所から、各国の法曹界の実務、各弁護士会の在り方、互いの専門分野についてまで、多岐にわたる情報交換をした。

このうち、租税法を専門とするパリ弁護士会員から、フランスでは、会社が銀行に税金の還付金請求権を債権譲渡した案件について、譲渡後の還付請求が、公法上の請求として行政裁判所の管轄になるのか、私法上の請求として民事裁判所の管轄になるのか、が大きな論点になっている、と興味深い話を聞くことができた。

最後に、当会理事者と海外からの参加者が集合しての記念撮影（\*表紙裏にカラー写真を掲載）が行われ、約1時間半のランチレセプションは大盛況のうちに散会した。お土産には手拭いをお渡しした。海外からの参加者からは口々に「非常に良いレセプションだった」との感想が聞かれ、当会の存在を国際的にアピールすることができたものと感じた。

